# 弘大農学生命科学部 同窓会会報

第３４号

平成２８年５月　発　行
発 行 弘前大学農学生命科学部同窓会
TEL ０１７２－３６－２１１１
FAX ０１７２－３９－３７５０
振替 ０２３４０－７－５６４
印刷（株）　笹　軽印刷

## 学部創立60周年と 学部改組を契機に更なる飛躍を

同窓会長　一　戸　洋　次

### はじめに

昨年７月４日開催の同窓会総会において役員改選があり、三上巽前会長の後任として選出された、昭和43年園芸化学科卒業の一戸洋次であります。その重責に身の引き締まる思いであります。新たな役員体制のもとで、会員の皆様はもとより、本年２月ご就任の橋本勝学部長はじめ学部関係者、学部後援会、地域の関係者のご支援をいただきながら、母校の発展に寄与し、会員相互の連携・親

弘前大学農学生命科学部創立60周年記念式典の様子（佐々木長市学部長式辞）

睦が図られるよう、微力ながら全力を尽くして参りたいと考えていますので、よろしくお願い申し上げます。

### 学部創立60周年と記念事業協賛に感謝

農学生命科学部の前身である農学部の創設は、昭和30（1955）年７月に先人の並々ならぬご尽力により、当時の文理学部から独立するかたちで実現したものです。その後、平成９（1997）年には大学学部再編成に伴い理学部生物学科の農学部への移設などにより、「農学生命科学部」と改称して現在に至り、平成27（2015）年７月に創立60周年の節目を迎えました。多くの困難を乗り越えてこられた大学関係者や支援者の皆様方に心より敬意を表し、深く感謝するものであります。

創立60周年記念事業については、学部、同窓会、後援会の三者で実行委員会を構成し、ご協力をお願いしたところ、所期の目標額を上回るご寄付をいただき、60周年記念誌「この10年の歩み」を刊行するとともに、昨年７月４日に三村申吾青森県知事ほか多くのご来賓の参列をいただいた記念式典、同窓生による記念講演、そして盛大な祝賀会を開催することができました。さらに学生の海外研修や教育備品の整備に対する寄付金を学部に送呈し、記念事業を滞りなく終えることができました。これもひとえに会員の皆様をはじめ学部教職員、地域の関係者からの多大なご支援、ご協賛の賜であり、厚くお礼申し上げます。

この記念事業を推進された三上前会長は、平成14年から13年間にわたり同窓会長を務め、学部創立50周年記念事業にも取り組まれ、この間、弘前大学同窓会会長として４期８年務め、弘前大学創立60周年記念事業を成功に導くなど母校の発展に大きく寄与され、同窓会活動に多大のご功績を残されました。心から敬意と謝意を表し、今後も顧問としてご指導をお願いいたします。

### 学部改組で食と国際化に着目した人材育成

弘前大学は、これまで「世界に発信し、地域とともに創造する」大学を目指すことを基本理念として運営や大学改革が進められてきましたが、本年度から今後の運営指針となる第３期中期目標・計画がスタートし、学部再編が実施されています。

農学生命科学部の改組は、これまでの使命に加え、将来を見据えて地域連携・地域貢献の更なる追及のため、「食」と「国際化」に着目した学科の再編強化を図ることとして、生物資源学科は「食料資源学科」に、園芸農学科は「国際園芸農学科」にそれぞれ改称し、農業の６次産業化促進のための食品科学コース新設や国際的な視野を持った人材育成に向けた全学科対象の海外研修の導入、食品科学プログラムや企業ビジネス・国際農業論の必修化など全国的にも特色のある内容となっています。これに伴い学生定員が30名増の215名、教員が10名増（予定）の約80名となるなど学部の規模は質的にも量的にもこれまでになく充実したものになっています。

このような学部改組が、食に関連する地域産業の発展やそれを担う人材の育成に大きな成果をもたらし、地域活性化の中核的拠点と位置づけされる弘前大学の中でも農学生命科学部がこれまで以上に地域貢献する最も身近な存在となっていくことを多くの関係者とともに期待しています。橋本学部長を中心に新たな体制のもとで教育研究の充実を図り、学部、学生ともに将来に向けて大きく飛躍されるよう祈念しています。

学部改組の方向付けや創立60周年記念事業を先導されました佐々木長市前学部長には心から敬意を表するとともに、深く感謝を申し上げます。

同窓会としては、引き続き学部と連携しながら学生の支援に努めていくとともに、学部の近況をお知らせしながら会員の親睦・懇親の輪を広げていきたいと考えておりますので、会員の皆様の格別のご理解とご協力をお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝、ご活躍を祈念して会長就任のご挨拶といたします。

# ご挨拶

農学生命科学部長　橋　本　　勝

同窓会会員の皆様におかれましては、日頃より弘前大学農学生命科学部をご支援いただき、心より感謝申し上げます。この２月より、農学生命科学部長を仰せつかりました。よろしくお願いいたします。

私は農学生命科学部が発足した1998年に本学に赴任しました。それまで弘前に訪れたこともなく、当時何もかもが珍しかったことを思い出します。さくら祭りの屋台、宵宮、お盆の送り火など、日本の原風景が連綿として受け継がれているのを目のあたりにして感動し、18年の生活の中で津軽弘前の素晴らしさを確信するようになりました。この素晴らしい環境にある弘前大学の発展に貢献すべく、心を新たにしております。就任してまだ一か月であり、正直、同窓会報に学部長としての記事を寄せるのは気が引けます。今回は、教員として感じてきた学生への思いと、同窓会の皆様へのお願いを述べさせていただきます。

「競争」が前面に出された我々教員の世代と比べ、我々が接する学生さんはまさに「ゆとり教育」の中で育ち、豊かな人間性を持ち合わせています。弘前という土地がそうさせるのでしょうか、本学には特に感性豊かな学生さんが多いと感じます。豊かな彼らの個性がより活かされる進路を得て欲しいと願う今日この頃です。しかし、日本の産業における「競争原理」は、以前よりも増し、大学４年生の就職活動時期に、社会の荒波を目にし、戸惑う学生さんも少なくありません。思通りの就職を得ることができない学生さんも少なからずいて、教員として無力感を感じることも多々あります。心から、満足できる活動の場を得るためにも、持ち合わせた個性をさらに磨いて欲しいと思います。学業に影響が出てはいけませんが、アルバイトやクラブ活動などを通して社会と接する機会を持ち、その経験も個性の形成に役立てて欲しいと思います。学業はもちろんのこと、多感な青春期をこの地で過ごす学生さんには飛躍して欲しいと願います。卒業して10年、20年という時間が過ぎたのち、有意義な青春であったと思い返してもらえるような、教育を行っていきたい、努力を続けていきたいと考えている次第です。

同窓会会員には、様々なご協力を仰ぐこともあるかと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

## 事務局から

平成17－18年度総会で「弘前大学農学生命科学部同窓会における個人情報の取り扱いについて」が制定されました。支部会開催などで、会員情報が必要な際には「同窓生情報活用依頼書」を郵送またはファックスでお送り下さい。様式は会報第23号（2005年６月１日発行）の10ページにあります。

同窓会ホームページ（http://nature.cc.hirosaki-u.ac.jp/dosokai/）からもダウンロードできます。

# 農学生命科学部創立60周年記念事業の立ち上げから

農学生命科学部創立60周年記念事業委員会　副委員長　泉　完

平成27年７月４日に弘前大学創立50周年記念会館みちのくホールを会場にして農学生命科学部創立60周年記念式典と記念講演会が開催されました。記念式典では来賓の三村申吾青森県知事をはじめ約100名が参加されました。記念式典につづく記念講演会は、「弘前公園の桜はなぜ・・・なのか」の演題で弘前市都市環境部公園緑地課樹木医の小林勝氏（昭和51年３月弘前大学農学部園芸学科卒業（蔬菜花卉園芸学教室））からご講演をいただきました。記念講演の際には演題の「弘前公園の桜はなぜ・・・なのか」の「・・・」に入る言葉を講演の前にアンケート方式で参加者から回収し，講演会の最後に小林氏から紹介していただき解答者には小林氏から記念品をいただけるという「サプライズ」を企画しました。記念祝賀会は場所を弘前大学大学会館に移し、来賓の平田博幸藤崎町長はじめとして約150名が参加されました。祝賀会では中国農業大学農学与生物技術学院から記念品の贈呈があり、また、料理の一部については、生物共生教育研究センターよりアップルラム、アップルビーフを提供していただきました。記念式典と記念講演会、および記念祝賀会の式次第を別に示します。

60周年記念事業を挙行するにあたり、60周年記念事業委員会の立ち上げからこれに携わる機会を得ることができましたのでご紹介したいと思います。

60周年記念事業の委員会は６回開催され、立ち上げとなる第１回の委員会は、平成25年12月２日に開催されました。委員会の構成は、学部から佐々木学部長・学科教員・事務長の12名、同窓会から三上同窓会長はじめ５名、後援会から川内後援会長はじめ４名の21名で発足しました。佐々木学部長を委員長とし同窓会と後援会の幹事も含まれています。学部では委員の中からワーキンググループを作り、委員会に諮る事項などを検討しました。第２回委員会（平成26年２月28日）で記念事業の実施日を平成27年７月４日（土）に決定するとともに、担当者とチーフを選定し、第３回委員会（平成26年４月８日）で具体的内容（(1)記念式典と記念講演会、(2)記念誌の刊行、(3)学部への支援事業・醵金事業、など）が検討されました。記念講演会については学部の卒業生から、また、学部への支援事業については①学生海外研修への支援、②教育備品の整備支援とし、醵金事業を開始することとしました。醵金の趣意書は、平成26年７月発行の同窓会会報に同封して募りました。皆様方のご支援とご協力をいただきまして、醵金額につきましては目標額300万を大きく上回る430万余のご寄附をいただいております。この中には法人様からのご寄付も含まれております。

また、記念誌については事業委員会の中で編集委員会（各学科５名と小生の６名で構成）を設置し、50周年以降学部での10年間のできごとを記す内容・構成としました。記念誌は、記念式典挙行日に刊行することを目標にして平成26年５月から原稿を依頼し、ご寄稿いただいた皆様方のご協力をもって記念式典挙行日に刊行することができました。

最後の委員会となる第６回委員会は、記念式典後の平成27年７月13日に開催され、記念事業における醵金された方々へのお礼とご報告、および決算報告が諮られました。決算報告では、収支決算の残額を学部に寄付（約288万、内訳：学生海外研修費約208万、教育備品80万）し、学部に対して支援することにしました。記念事業委員会は、これらを了承としたことをもって解散となりました。

小生、昭和53年３月に弘前大学農学部農業工学科を卒業しており、同窓生、そして教員としての

２足のわらじを履いています。今回、学部・同窓会・後援会共催での記念事業の委員会裏方として大変勉強させていただきました。ありがとうございました。

最後に、記念講演の演題「弘前公園の桜はなぜ・・・なのか」の「・・・」は、小林氏によると「ソメイヨシノ、長寿」であると紹介されました。

# 弘前大学農学生命科学部創立60周年
# 記念式典　記念講演　記念祝賀会

2015. 7. 4

弘前大学農学生命科学部・同同窓会・同後援会記念式典

## ～記念式典・記念講演～

時　間　　午後１時
場　所　　弘前大学創立50周年記念会館　みちのくホール

| | | |
|---|---|---|
| 開式の辞 | | |
| 農学生命科学部長式辞 | | （表紙写真） |
| 弘前大学長挨拶 | | （写真１） |
| 来賓祝辞 | | |
| 青森県知事 | 三　村　申　吾　様 | （写真２） |
| 弘前市長 | 葛　西　憲　之　様 | （写真３） |
| 中国農業大学農学与生物技術学院 副院長 | 李　　天　紅　様 | （写真４） |
| 在学生代表挨拶 | | （写真５） |
| 閉式の辞 | | |
| 記念講演 | 小　林　　勝　　様 | （写真６） |

## ～記念祝賀会～

時　間　午後４時　―　６時
場　所　弘前大学大学会館３階　大集会室

| | | |
|---|---|---|
| 開会のことば | | |
| 同窓会会長挨拶 | | （写真７） |
| 来賓祝辞 | | |
| 藤崎町長 | 平　田　博　幸　様 | （写真８） |
| 青森県りんご協会会長 | 福　士　春　男　様 | （写真９） |
| 岩手大学農学部長 | 高　畑　義　人　様 | （写真10） |
| 乾　杯 | | |
| 弘前大学名誉教授 | 豊　川　好　司　様 | （写真12） |
| 中締め | | |
| 後援会会長 | | （写真16） |
| 閉会のことば | | |

## ■式典の様子■

写真１：佐藤　敬　弘前大学長

写真２：三村　申吾　青森県知事

写真３：蛯名　正樹　弘前副市長（代読）

写真４：李　天紅　副院長

写真５：湯口　康永　氏

写真６：記念講演　小林　勝　氏

## ■祝賀会の様子■

写真７：三上　巽　同窓会長

写真８：平田　博幸　藤崎町長

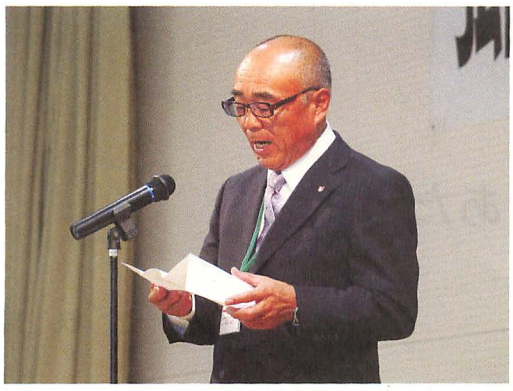

写真９：藤田　光男　りんご協会専務（代読）

写真10：高畑　義人　岩大農学部長

写真11：中国農業大学からの記念品贈呈

写真12：豊川　好司　名誉教授

写真13：歓談の様子

写真14：歓談の様子

写真15：余興　弘大囃子組

写真16：河内　勇人　後援会長

定年退職教員からの寄稿～1

# 定年退職にあたって

分子生命科学科　大　町　鉄　雄

平成３年８月に弘前大学農学部に着任してから24年が過ぎた。長いようで短いようにも思える。着任後、弘前大学が２、３年前から準備していた付属遺伝子実験施設新設の申請書作成のお手伝いがはじめての仕事であった。平成５年４月に同実験施設が設置され、私にとっては好都合になった。

当時、担当授業科目は微生物遺伝子工学１科目で、委員会もほとんどなく、学生の実験を邪魔しながら一緒に実験していた。はじめのころは遺伝子の単離が中心でなかなか単離出来ず苦労した。最近はゲノムプロジェクトで遺伝子配列が分かっているので、目的の遺伝子を PCR で増幅して簡単に単離できるようになった。技術の進歩の速さに驚く限りである。単離した遺伝子のサブクローニング、大腸菌での発現や酵素活性測定、変異株の作製と解析等が主な実験であった。抗酸菌病研究所での P-450 遺伝子の単離を含めて、これまでにアクセッションナンバーを獲得した遺伝子（cDNA クローンを含め）は約30を超えた。これが唯一の自慢のひとつ（これしかないが）である。この数年、授業や会議の合間を縫って気紛れにいろいろなプラスミドを作って学生に渡して解析して貰うのが関の山で、この１年前までやっていた。110ページの実験ノートも34冊になった。

平成12年に生物資源科学科、平成14年応用生命工学科の学科長を２度務めた。学科の先生方のご協力によって何とか務めた。その後、個人的な理由もあり学部の委員会等の委員をほとんどしなかった。当時の学部長が心配してあまり負担にならない委員会の委員に推薦してくれた。他にも歴代の学部長には大変お世話になった。

３月７日にはじめての最後の講義をやった。いわゆる最終講義である。タイトルは「(続) ぼくの細道 --- 酵素に携わって34年 ---」で、実験に用いた生物種が違っても、酵素に関する生化学、分子生物学的な研究を細々とやってきた内容である。“ぼくの細道”とその前の（続）については講義の時に説明した。*Pseudomonus* 属によるアミノチアゾリンカルボン酸の微生物変換による L-システインの生成機構の解明と、細胞性粘菌においてアセトアセチル-CoA チオラーゼやミトコンドリアプロセシングペプチダーゼで見出した新しい知見を紹介した。最後の２、３枚のスライドで、「解釈」、「理解」、「曖昧さ」のことばで最近感じたことを、人との繋がりや成長との関係を意図して話したが、皆様に伝わったかどうか、逆に云い過ぎたのではと反省もした。

今思うに、農学部・農学生命科学部に24年間も在籍したが、学部懇親会や同窓会などの幹事や役員を引き受けることもなく、また、学部付属の藤崎農場、金木農場、深浦実験所を訪ねることもしていなかった。生物共生センターの教職員の方々には大変申し訳なく思っている。

平成24年度に最後のご奉公で10年振りに分子生命科学科の学科長を引き受け、特に問題もなく務めることができたと思っている。３年前から後始末の準備を始めていたところ、ひょんなことから学部運営会議委員（教育担当）になった（正確にはさせられた）。正に退職の２年前であった。この２年でやり残したことも沢山あり、置き土産になってしまった。申し訳なく思っている。最後に、長年お世話になった弘前大学、農学生命科学部に心より感謝致します。

定年退職教員からの寄稿～2

# 昆虫の脱皮・変態の研究40年

生物資源学科　比留間　潔

弘前大学に赴任したのが2004年の５月だから、早いものでこの３月で約12年になる。この間自分自身では研究と教育に一途に勤しんできたつもりである。最後の機会であるので、弘前大学での思い出を書くより、在職中の研究成果を述べることで最後の言葉としたい。

昆虫の発育は幼虫脱皮を繰り返した後に蛹、成虫へと変態する。これらは主としてエクダイソンと幼若ホルモン（JH）という２つのホルモンにより制御されている。これらのホルモンの血中濃度は発育により変動するが、弘前大赴任前にこれらの変動の発育時期特異的な役割について解明していたし、幼虫脱皮時におけるこれらホルモンの分子作用についても解明していた。

それまで一貫して昆虫ホルモンによる脱皮と変態のメカニズム解明の研究をしてきたので、弘前でもこの研究を継続したいと考えた。当時、ゲノムプロジェクトが終了しつつあったカイコを使用して、蛹変態の分子機構と、JH 生合成の調節機構を解明することを目標にした。後者は主として蛹変態誘導の鍵となる、終齢幼虫での JH 合成の停止機構に焦点を当てた。発育時期で変動する JH の合成能は、エクダイソン、ドーパミン及び種々のペプチドホルモンにより、発育時期特異的に異なる作用と作用機構で JH 合成の発現を調節することで、制御されていることを明らかにした。特に蛹変態の引き金となる終齢期での JH 合成の停止については、エクダイソンの血中濃度の低下と、ドーパミン、アラトスタチン、short Neuropeptide F などによる JH 合成の抑制作用が同時に作用し、かつこれらが異なる作用機構で幾重にも保険が掛けられ、完全な JH 合成停止を保証して蛹変態を導くシステムであることを明らかにした。

一方、蛹変態のセントラルドグマである蛹コミットメントの分子機構は、Verson's gland を使用して細胞レベルで研究を進めた。この器官はショウジョウバエの成虫よりも大きくなる巨大な単一細胞である。発生生物学の定説では、細胞のコミットメントは中間型を経由しないでジャンプして起こる。しかしこの単一細胞を使用して、細胞レベルでのコミットメントは幼虫から蛹へと徐々に起こることを見出した。また他の組織とは異なり Verson's gland の蛹コミットメントにエクダイソンは関与せず，JH 不在下でインスリンシグナル経路と TOR シグナル経路が関与する2つのステップで誘導される新規な機構を明らかにした。これら２つの研究課題により蛹変態の分子機構の概略を明らかにすることができたと思う。

これらの研究の最中に偶然にも JH が昆虫の発育に及ぼす新しい作用、すなわち終齢幼虫になると成虫原基の発育を積極的に抑制する作用が JH にあることを発見した。また、摂食によりスイッチが入る、蛹化を導く「内在のタイマー」が存在していることも証明した。

以上弘前大での研究成果は、世界中で使用されている発生生物学の教科書である Scott Gilbert の "Developmental Biology" に引用されるなど、本質をついた研究ができたと思っている。これらの研究は金児雄先生ならびにポスドク、学生諸君の援助なくしては成し得なかった。ここに感謝したい。

# 平成27年度卒業生・修了生の祝賀会ならびに就職・進学先

平成28年３月23日に、平成27年度の農学生命科学部卒業証書授与式および大学院農学生命科学研究科の学位記授与式が行われた。今年度の学部卒業生は 174名、大学院修士課程修了生は49名で、農学部と農学生命科学部をあわせた卒業生は7,296名、研究科修了生は1,038名となった。

あいにくの天候のため、学部203講義室にて記念写真撮影の後、学部・後援会・同窓会共催の祝賀会兼同窓会歓迎会が大学会館３階大ホールで行われ、恩師や友人との別れを惜しんだ。

本年度の卒業・修了生の就職先および進学先は以下の通りである（括弧内に数字を記入した場合以外は各１名である）。

**生物学科**

（株）ＴＦＤコーポレーション、（株）ウェルネット、（株）サイビーンズ、（株）メガネトップ、（株）モンベル、（株）ユニバーサル園芸社、（株）秋田県農協電算センター、（株）仙台進学プラザ、（株）東京めいらく、リコーＩＴソリューションズ（株）、三菱電機住環境システムズ（株）、山崎製パン（株）、新生ホームサービス（株）、生活協同組合コープあきた、東京コンピューターサービス（株）、東京スマイル農業協同組合、日東エフシー（株）、日本郵便（株）、千葉県公立学校、海上保安庁、安曇野市職員、五所川原市職員、札幌市職員、弘前大学大学院（10）、北海道大学大学院（2）、京都大学大学院

**分子生命科学科**

（株）DNP 情報システム、（株）クリニカルサポート、（株）クリニコ、（株）マエダ、（株）ヤマヨ、（株）丹波屋、（株）日本防災技術センター、（株）薬王堂、国立大学法人　弘前大学、国立大学法人　北海道大学、上北農産商事（株）、雪印メグミルク（株）、東北化学薬品（株）、日本食研ホールディングス（株）、青森県公立学校、北海道公立学校、横須賀市職員、札幌市職員、青森県職員、平川市職員、北海道職員（2）、弘前大学大学院（6）

**生物資源学科**

（株）ＪＴＢ東北、（株）コメリ、（株）サンデー、（株）ツルハ、（株）みちのく銀行、（株）黄金崎農場、（株）日本アクセス、Ｍｅｉｊｉ　Ｓｅｉｋａ　ファルマ（株）、Ｗｉｎテクノロジ（株）、キヤノンプレシジョン（株）、トーアエイヨー（株）、ナカノ農事（株）、ニプロ（株）、一般財団法人 北海道薬剤師会公衆衛生検査センター、東北化学薬品（株）、日本郵便（株）、北海道糖業（株）、三沢市職員、青森県職員（2）、北海道職員、弘前大学大学院（8）、東北大学大学院

**園芸農学科**

（株）ウェルファムフーズ、（株）コロワイドMD、（株）ツルハ、（株）フラワーオークションジャパン、（株）河北新報社、（株）小田島、（株）丹波屋、（株）北洋銀行、ＪＡ東日本くみあい飼料（株）、イーピーエス（株）、いわて生活協同組合、きたそらち農業協同組合、ふらの農業協同組合、丸大堀内（株）、自営業、生活協同組合コープさっぽろ、独立行政法人農畜産業振興機構、北海道日紅（株）、野口観光（株）、野村證券（株）、千葉県公立学校、岩手県職員、青森県職員、栃木県職員、北海道職員、弘前大学、弘前大学大学院（4）

**地域環境工学科**

（株）水工エンジニアリング、（株）増川プロジェクト技建、（株）日立ハイテクフィールディング、（株）復権技術コンサルタンツ、ホクレン農業協同組合連合会、小岩井農牧（株）、大日本コンサルタント（株）、東日本旅客鉄道（株）、八千代エンジニヤリング（株）、青森県公立学校、東北地方整備局、加美町職員、弘前市職員、山形県職員、秋田県職員、青森県警察、青森県職員、青森市職員、千葉県職員、栃木県職員、福島県職員、弘前大学大学院（2）

**＜大学院農学生命科学研究科修了生＞**

**生物学コース**

（株）Ｇｌｏｂａｌ　Ａｓｓｉｓｉｔ、（株）アグリテクノ、（株）オノダ、（株）シー・アイ・シー、（株）土木管理総合試験所、（株）飯田商店、（株）富士通システムズ・イースト、DOT インターナショナル（株）、ＷＤＢエウレカ（株）、エイキット（株）、ソフトバンク コマース＆サービス（株）、マルキユー（株）、ワダカン（株）、生活協同組合コープさっぽろ、相模ゴム工業（株）、地方独立行政法人青森県産業技術センター　水産総合研究所、東京青果（株）、日東エフシー（株）、太田市職員

**分子生命科学コース**

（株）アイコン・ジャパン、（株）かねふく、（株）環境技研、（株）大阪ソーダ、ＷＤＢエウレカ（株）、ニプロ（株）（2）、綜合キャリアオプション、太子食品工業（株）、品川リフラクトリーズ（株）、厚生労働省、岩手大学大学院

**生物資源学コース**

（株）東京かねふく、サカイキャニング（株）、わらべや日洋（株）、一般財団法人日本食品分析センター、青森県農村工業農業協同組合連合会、髙橋庄作酒造店、岩手大学大学院

**園芸農学コース**

（株）データベース、（株）三祐コンサルタンツ、理研ビタミン（株）、Mahidol University、岩手大学大学院（2）

**地域環境工学コース**

岩手大学大学院（2）

# 新任教員の自己紹介

## 曽我部　　篤　　助教（生物学科）

平成27年７月１日付けで、農学生命科学部生物学科の助教に着任しました曽我部篤と申します。専門は動物生態学で、主に魚類など水棲動物の行動や生態の進化に関する研究を行なっています。青森県の豊かで変化に富んだ水域環境とそこに生息する多様な生き物を材料に、教育・研究を進めていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いします。

## 鄒　　青　穎　　助教（地域環境工学科）

2015年10月１日付けで、農学生命科学部地域環境工学科の助教に着任しました。着任前には京都大学防災研究所にて、主に長期的な地形発達といった視点から、崩壊予測の精度向上などに取り組んできました。これは、山地災害の予測、土砂災害防災対策および環境保全について考える貴重な機会でした。今後は山間地環境における課題の解決のために、研究・教育・社会貢献を進めていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

# 教職員人事

**退職（定年退職）**　平成28年３月末日

大町　鉄雄（おおまち　てつお）
教授（分子生命科学科）

比留間　潔（ひるま　きよし）
教授（生物資源学科）

武田　共治（たけだ　きょうじ）
准教授（園芸農学科）

**採用（新任）**

曽我部　篤（そがべ　あつし）
助教（生物学科）　平成27年７月１日

鄒　　青穎（ツォウ　チンイン）
助教（地域環境工学）　平成27年10月１日

# 会費納入と住所通知のお願い

平成27－28年度会費5,000円を、同封致しました振込用紙でお納め下さいますようお願い致します。なお、すでに平成27－28年度会費をお納め頂いた会員には振り込み用紙を同封しておりません。

転勤や転居で住所が変更になりましたら、事務局までご一報下さい。

**同窓会事務局**

〒036-8561　弘前市文京町３　弘前大学農学生命科学部同窓会

戸羽　隆宏　　電話　0172－39－3786　　E-mail　ttakki@hirosaki-u. ac. jp
加藤　　幸　　電話　0172－39－3869　　E-mail　kato@hirosaki-u. ac. jp
濱田　茂樹　　電話　0172－39－3772　　E-mail　shamada@hirosaki-u. ac. jp

## 母校援助費で整備されました

同窓会では、学部建物周辺の環境整備に役立てていただくことを目的として、会費収入の一部を学部に寄付しています。平成27年度は、校舎南側にあるガラス温室の天窓制御盤の修理を行いました。

温室全体の様子

修理した天窓制御装置

# 平成27－28年度　同窓会総会報告

平成27－28年度総会が、平成27年７月４日11時から弘前大学農学生命科学部において開催されました。平成25－26年度事業報告および会計報告、平成27－28年度の事業計画、予算、規約改正案および役員案について、事務局より報告と提案がなされ、質疑応答の後、承認されました。総会終了後には、農学生命科学部創立60周年記念式典及び祝賀会が執り行われました。

## １．　平成25－26年度事業報告

(1) 平成25年度事業報告

H25. 4. 8　被災学生勉学支援（10万円、１名）
H25. 6.24　同窓会報第31号発行
H25. 6.26　全学同窓会会費（14.8万円）の納入
H25. 7.13　同窓会総会（弘前市：弘前パークホテル）
H25. 7.20　秋田支部総会（秋田市：イヤタカ）（工藤教員、張教員出席）
H25. 7.31　母校援助費（45万円）納入（H24年分を含む）
H25. 9.26　同窓会報の在学生保証人への送付（成績通知表に同梱）
H26. 3.20　卒業・修了生同窓会入会祝賀会

(2) 平成26年度事業報告

H26. 4. 8　新入生への同窓会報第31号の配布
H26. 5.23　全学同窓会会費（12万9千500円）の納入
H26. 6.25　同窓会報第32号発行
H26. 9.29　同窓会報の在学生保証人への送付（成績通知表に同梱）
H27. 2.16　推薦入試合格者への同窓会報第32号の発送（入学手続き書類に同梱）
H27. 3.15　前期日程合格者への同窓会報第32号の発送（入学手続き書類に同梱）
H27. 3.20　母校援助費（24万円）納入
H27. 3.24　卒業・修了生同窓会入会祝賀会
H27. 3.27　後期日程合格者への同窓会報第32号の発送（入学手続き書類に同梱）

＜参考＞
（平成27年度）

H27. 5.11　同窓会報第33号発行
H27. 5.14　全学同窓会会費（12万9千500円）の納入
H27. 6.26　同窓会役員会開催
H27. 7. 4　同窓会総会（弘前市：弘前大学農学生命科学部）
学部創立60周年記念式典、講演および祝賀会
H27. 7.24　秋田支部総会（泉、濱田教員出席）

## 2．平成25－26年度決算報告

収　入

| 項目 | 項　目 | H25-26年度予算(案) | H25年度 | H26年度 | H25-26年度決算 | H23-24年度決算 | 達成率(%) | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| A | 繰越金 | ¥4,696,152 | ¥4,696,152 | － | ¥4,696,152 | ¥4,372,821 | 100% | |
| B | 正会員会費 | ¥1,340,000 | ¥1,130,000 | ¥400,000 | ¥1,530,000 | ¥3,345,000 | 114% | 計306名(前期2重払い182名分を含めると、実質488名)【参考】522名（H19-20年）→435名（H21-22年）→487名（H23-24年：2重払い182名分をのぞいた実質分) |
| C | 入会費 | ¥1,850,000 | ¥940,000 | ¥1,040,000 | ¥1,980,000 | ¥1,600,000 | 107% | 計198名【参考】240名（H19-20年）→189名(H21-22年）→160名（H23-24年) |
| D | 利息 | ¥2,000 | ¥726 | ¥689 | ¥1,415 | ¥1,424 | 71% | |
| E | 振替手数料 | ¥-54,360 | ¥-33,770 | ¥-20,440 | ¥-54,210 | ¥-91,420 | 100% | |
| F | その他 | ¥100,000 | ¥90,000 | ¥0 | ¥90,000 | ¥397,000 | 90% | 総会会費(6万円)、宮入先生寄附金(3万円)・H23-24年度決算には被災学生勉学支援寄附金(29万1千円)が含まれている |
| | 合計 | ¥7,933,792 | ¥6,823,108 | ¥1,420,249 | ¥8,243,357 | ¥9,624,825 | 104% | |

支　出

| 項目 | 項　目 | H25-26年度予算(案) | H25年度 | H26年度 | H25-26年度決算 | H23-24年度決算 | 達成率(%) | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 会報発行費 | ¥2,700,000 | ¥1,351,172 | ¥1,433,791 | ¥2,784,963 | ¥2,686,898 | 103% | |
| 2 | 卒業祝賀会費 | ¥951,250 | ¥459,519 | ¥438,105 | ¥897,624 | ¥951,250 | 94% | |
| 3 | 支部派遣費 | ¥150,000 | ¥46,000 | ¥0 | ¥46,000 | ¥129,110 | 31% | H25年に秋田県 |
| 4 | 母校援助費 | ¥900,000 | ¥550,000 | ¥240,432 | ¥790,432 | ¥570,000 | 88% | H25年分の内訳：環境整備費としてH24年未納分(21万円)＋H25年分(24万円)＋被災学生勉学支援経費1名分(10万円)：H26年は環境整備費のみ |
| 5 | 総会経費等 | ¥250,000 | ¥132,000 | ¥0 | ¥132,000 | ¥240,245 | 53% | |
| 6 | 庶務・管理費 | ¥60,000 | ¥24,000 | ¥36,000 | ¥60,000 | ¥19,000 | 100% | |
| 7 | 通信・印刷費 | ¥65,000 | ¥16,550 | ¥977 | ¥17,527 | ¥14,170 | 27% | |
| 8 | 慶弔費 | ¥40,000 | ¥2,700 | ¥0 | ¥2,700 | ¥22,000 | 7% | |
| 9 | 全学同窓会会費 | ¥296,000 | ¥148,000 | ¥129,500 | ¥277,500 | ¥296,000 | 94% | |
| 10 | 予備費(繰越) | ¥2,521,542 | － | － | ¥3,234,611 | ¥4,696,152 | 128% | |
| | 合計 | ¥7,933,792 | ¥2,729,941 | ¥2,278,805 | ¥8,243,357 | ¥9,624,825 | 104% | |

平成 27 年 6 月 26 日

会計監査　氏名　齋藤 竟　㊞

## ３．規約改正

弘前大学農学生命科学部同窓会規約

平成27年７月４日改正

第１条　本会は弘前大学農学生命科学部同窓会と称し事務局を弘前大学農学生命科学部内に置く。

第２条　本会員を正会員、特別会員、準会員とし、学部卒業生ならびに大学院修了生を正会員、母校教員、前教員（前教官）及び関係者を特別会員とし、在学生を準会員とする。

第３条　本会は母校の発展に積極的に寄与し、会員相互の連絡、親睦を図ることを目的とする。

第４条　本会の目的達成のため下記の事業を行う。

１．会報の発行
２．支部の設置
３．その他本会目的達成のため必要なる事項

第５条　本会に次の役員を置く。

１．会　　長　　会員中より役員会で推薦し、総会で決定する。
２．副 会 長　　〃
３．監　　事　　〃
４．支 部 長　　支部総会で正会員より選出する。
５．評 議 員　　総会に於て正会員中より30名以内を選出する。
６．幹　　事　　正会員中より若干名を会長が委嘱する。

第６条　役員の任務を次の如く定める。

１．会　　長　　本会を代表し会務を統理する。
２．副 会 長　　会長を補佐し、会長の代理をつとめる。
３．監　　事　　会計を監査する。
４．支 部 長　　支部を代表し、支部の事務をつかさどる。
５．評 議 員　　役員会を構成する。
６．幹　　事　　本会の会務を担当する。

第７条　役員の任期

１．会長、副会長、監事、評議員および幹事の任期は２年と定める。
２．支部長の任期は支部の決定による。

第８条　本会に名誉会長と顧問を置く。

１．名誉会長　　学部長を推戴する。
２．顧　　問　　学部長および正副会長の経験者から、会長が本人の内諾を得たうえで委嘱する。副会長経験者の任期は委嘱した会長の任期内とする。

第９条　総　　会

１．通常総会　　隔年毎とし期日は役員会に於て決定するものとする。
２．臨時総会　　役員会に於て必要と認めた場合にこれを開く。
３．総会に於て次の事項を審議する。
　イ　過去２年間の事業報告及び収支決算報告
　ロ　今後２年間の事業計画
　ハ　予算案の審議
　ニ　規約改正
４．総会の議事は出席会員の過半数をもってこれを決する。可否同数の場合は議長の決するところによる。
５．議長は総会に於て出席会員中より選出する。

第10条　役　員　会

１．役員会は会長、副会長、監事、支部長、評議員及び幹事をもって構成する。
２．役員会は会長が招集し、本会の方針、会の改廃その他重要事項を審議し、これを総会に提案する。

第11条　本会の経費は会費及び寄附金をもってこれに充てる。

１．会計年度は４月１日から翌々年３月31日までの単年度とする。
２．会　　費　　入会費　10,000円（入学時納入）
　　正会費　１年度（２年間）5,000円（２年分前納）

**申し合せ事項**

１．特別会員、正会員が逝去した場合、弔電をもって弔意を表する。
２．学部中退者で希望者は正会員とする。

## 4．平成27－28年度事業計画

(1) 総会の開催
(2) 役員会の開催
(3) 同窓会会報の発行（第33、34号）
(4) 支部活動への援助（教員・役員の派遣）
(5) 卒業・修了生同窓会入会祝賀会
(6) 農学生命科学部への援助
(7) 全学同窓会への援助
(8) 被災学生勉学支援（１名）
(9) その他必要と認められる事業

## 5．平成27－28年度予算

**収　入**

| 項目 | 項　目 | H27-28年度予算(案) | H25-26年度実績 | H25-26年度予算(案) | 前期比(%) | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| A | 繰越金 | ¥3,234,611 | ¥4,696,152 | ¥4,696,152 | 69% | |
| B | 正会員会費 | ¥2,250,000 | ¥1,530,000 | ¥1,340,000 | 168% | 450名×¥5,000．H25-26年度予算(案)では2重払い182名分を差し引いて見積もった |
| C | 入会費 | ¥1,850,000 | ¥1,980,000 | ¥1,850,000 | 100% | 185名×¥10,000 |
| D | 利息 | ¥1,500 | ¥1,415 | ¥2,000 | 75% | |
| E | 振替手数料 | ¥-82,550 | ¥-54,210 | ¥-54,360 | 152% | 納入予想(入会＋定期会費＝635名)×¥130. |
| F | その他 | ¥30,000 | ¥90,000 | ¥100,000 | 30% | 役員会後の懇親会費 |
| | 合計 | ¥7,283,561 | ¥8,243,357 | ¥7,933,792 | 92% | |

**支　出**

| 項目 | 項　目 | H27-28年度予算(案) | H25-26年度実績 | H25-26年度予算(案) | 前期比(%) | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 会報発行費 | ¥2,800,000 | ¥2,784,963 | ¥2,700,000 | 104% | 年1回×2年分. |
| 2 | 卒業祝賀会費 | ¥900,000 | ¥897,624 | ¥951,250 | 95% | |
| 3 | 支部派遣費 | ¥100,000 | ¥46,000 | ¥150,000 | 67% | |
| 4 | 母校援助費 | ¥450,000 | ¥790,432 | ¥900,000 | 50% | H25-26年会費収入(351万円)の1割=35万円をH25-26年分として納入；被災学生勉学支援1名(10万円) |
| 5 | 総会経費等 | ¥45,000 | ¥132,000 | ¥250,000 | 18% | 今期は総会後の懇親会がないため. |
| 6 | 庶務・管理費 | ¥60,000 | ¥60,000 | ¥60,000 | 100% | H25-26年実績から算出. |
| 7 | 通信・印刷費 | ¥20,000 | ¥17,527 | ¥65,000 | 31% | H25-26年実績から算出. |
| 8 | 慶弔費 | ¥10,000 | ¥2,700 | ¥40,000 | 25% | |
| 9 | 全学同窓会会費 | ¥259,000 | ¥277,500 | ¥296,000 | 88% | ¥129,500×2年 |
| 10 | 予備費（繰越） | ¥2,639,561 | ¥3,234,611 | ¥2,521,542 | 105% | |
| | 合計 | ¥7,283,561 | ¥8,243,357 | ¥7,933,792 | 92% | |

## 6．平成27－28年度役員

| 役職名 | 氏名 | 勤務先等 | 卒業年 | 研究室名 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 名誉会長 | 佐々木　長　市 | 学部長 | | | |
| 顧問 | 岩　井　邦　彦 | 元会長 | 昭32 | 土肥 | |
| | 豊　川　好　司 | 元学部長 | 昭38 | 畜産 | |
| | 高　橋　秀　直 | 元学部長 | | | |
| | 鈴　木　裕　之 | 元学部長 | | | |
| | 三　上　　巽* | 前会長 | 昭42 | 農経 | |
| | 成　田　　博* | 前副会長 | 昭53 | 果樹 | |
| | 泉　谷　雅　昭* | 前副会長 | 昭51 | 水利 | |
| | 西　川　明　満* | 前副会長 | 昭45 | 作物 | |
| 会長 | 一　戸　洋　次* | 元青森県農林水産部長 | 昭43 | 土肥 | |
| 副会長 | 高　谷　清　孝* | 青森県農林水産部構造政策課長 | 昭57 | 育種 | |
| | 板　垣　宣　志* | 弘前市建設部長 | 昭56 | 水利 | |
| | 黒　滝　英　樹* | 全農青森県本部米穀部長 | 昭60 | 農経 | |
| 監事 | 齊　藤　　寛 | 元弘前大学農学生命科学部 | 昭42 | 土肥 | |
| | 岩　谷　　健 | 青森県農協中央会経営対策部専任審議役 | 昭56 | 農経 | |
| 支部長 | 熊　谷　幸　一* | 弘前市農林部長 | 昭57 | 土肥 | 弘前支部 |
| | 黒　滝　英　樹* | 全農青森県本部米穀部長 | 昭60 | 農経 | 東青支部 |
| | 中野渡　牧　雄* | 十和田市建設部都市整備建築課長 | 昭53 | 水利 | 上十三支部 |
| | 松　本　　勤 | 元秋田県立大学短期大学部長 | 昭39 | 植病 | 秋田支部 |
| | 大　竹　俊　博 | 山形県食と緑の交流プラザ | 昭36 | 土肥 | 山形支部(弘山会) |
| | 尾　形　　正* | (公社)福島県植物防疫協会常務理事 | 昭51 | 植病 | 福島県支部(わんどの会) |
| 評議員 | 工　藤　啓　一 | 元弘前大学農学生命科学部 | 昭38 | 作物 | |
| | 工　藤　信　裕 | 元青森県庁 | 昭45 | 水利 | |
| | 工　藤　　明* | 元弘前大学農学生命科学部 | 昭47 | 水利 | |
| | 櫻　田　隆　夫 | 東北建設コンサルタント（株） | 昭52 | 造施 | |
| | 泉　　完 | 弘前大学農学生命科学部 | 昭53 | 水利 | |
| | 蛯　名　正　樹 | 弘前市副市長 | 昭53 | 農地 | |
| | 古　舘　行　雄 | 名久井農業高校 | 昭55 | 蔬花 | |
| | 奈良岡　　馨 | 青森県産業技術センター弘前地域研究所技術支援部長 | 昭56 | 農利 | |
| | 田　中　　満 | 柏木農業高校 | 昭58 | 育種 | |
| | 駒　井　秋　浩 | 弘前実業高校 | 昭59 | 果樹 | |
| | 清　藤　文　仁 | 青森県産業技術センター農林総合研究所 | 昭59 | 生化 | |
| | 東　　信　行 | 弘前大学農学生命科学部 | 昭62 | 生物学科 | |
| | 鳴　海　　純 | 柏木農業高校 | 平 6 | 果樹 | |
| | 山　本　晋　玄 | 青森県農林水産部食の安全・安心推進課 | 平11 | 植病 | |
| | 栗　田　大　輔* | 弘前大学農学生命科学部 | 平16 | 分子生物 | |
| | 房　　家　琛 | 弘前大学農学生命科学部（金木農場） | 平16 | 畜産(院) | |
| | 福　田　和　光 | 大鰐町役場 | 平19 | 水利 | |
| | 澤　田　　勲* | 相馬村農業協同組合 | 平19 | 生物生産 | |
| | 小　林　　達* | 青森県産業技術センターりんご研究所栽培部 | 平24 | 果樹 | |
| 幹事 | 戸　羽　隆　宏 | 弘前大学農学生命科学部 | 昭50 | 農利 | 総務幹事 |
| | 濱　田　茂　樹* | 弘前大学農学生命科学部 | 平 9 | 生化 | 情報幹事 |
| | 加　藤　　幸* | 弘前大学農学生命科学部 | 平 4 | 造施 | 会計幹事 |

*新任

## 7．学部創立60周年記念事業経過報告

H25.12. 2　創立60周年記念事業委員会第１回
委員長佐々木学部長、委員20名（うち、同窓会からは三上会長、成田・泉谷・西川副会長と戸羽総務幹事）
10、30、40および50周年記念事業内容の紹介など

H26. 2.28　創立60周年記念事業委員会第２回
記念事業内容と役割分担の検討など

H26. 4. 8　創立60周年記念事業委員会第３回
事業計画（総額300万円）の決定など

H26. 6.25　趣意書の発送(同窓会報第32号に同梱)

H27. 3. 6　創立60周年記念事業委員会第４回
祝賀会等への招待者の決定など

H27. 6.19　創立60周年記念事業委員会第５回
記念式典等当日の詳細の打合せなど

H27. 6.30　現在の醵金状況　230名様
（法人様４件を含む）から総額4,285千円

# 弘前大学白神酵母による清酒醸造

分子生命科学科・教授　殿　内　暁　夫

世界最大規模の原生的なブナ林を誇る世界自然遺産「白神山地」は多様かつ豊富な微生物資源を抱えていますがその殆どが有効に利用されているわけではありません。私は白神山地の微生物資源の活用を図る研究の一環として、白神山地から分離した酵母 *Saccharomyces cerevisiae* を分離し、「弘前大学白神酵母[商標登録573997号]（以下弘大白神酵母）と名付けて酒類などの醸造物の製造に利用する研究を行っています。これまでに弘前大学白神酵母を用いて製造されたリンゴ酢（カネショウ株式会社）、リンゴシードル（弘前シードル工房 Kimori）が販売されていますが、ここでは2015年12月に六花酒造株式会社から限定販売された清酒「純米酒じょっぱり白神酵母 No.9 仕込み」についてご紹介します。このお酒の醸造に用いた弘大白神酵母 No.9 株はブナのリターから分離されました。No.9 株は他の白神酵母株に比較して低温での増殖が良好であることから前述のリンゴシードルの醸造にも使われています。No.9 株で仕込んだ清酒の分析値は日本酒度-22.5、アルコール度数13.8%、酸度2.7、アミノ酸度1.3で、通常の清酒よりもアルコール濃度が低く酸度が高いという特徴があります。清酒を特徴づける吟醸香は低めですが、甘み・酸味が調和し、すっきりと飲みやすく女性に好まれるお酒に仕上がったといえるでしょう。今後は、弘大ブランドを冠した清酒の開発に向けて弘大白神酵母の改良を進めていくつもりです。

## 支部だより

# 秋田支部総会に参加

平成27年７月25日（土）秋田市「イヤタカ」にて開催されました、農学生命科学部同窓会秋田支部総会に参加して参りました（出席者19名）。大学からは、泉　完先生（地域環境工学科）と事務局から濱田　茂樹（情報幹事：分子生命科学科）が出席いたしました。支部長の松本　勤先生（秋田県立大学短期大学名誉教授）の開会の挨拶にはじまり、支部より最近の弘前大学の近況を支部会員に紹介してほしいとの要望をうけ、濱田が平成28年度からの大学改革に伴う農学生命科学部の改組や、最近の学部の成果として「紅の夢」や「アップルビーフ」について紹介をいたしました。また、例年秋田支部総会では、支部会員による講演が行われているようですが、今回は大学から講演をという要望があり、泉先生から「川の生態系を守る魚道　～魚道の水理特性と魚の遡上遊泳行動～　」の演題でご講演頂きました。実際の遡上調査の様子や魚の遊泳能力の測定など、普段目にすることの出来ない魚の生態とその実証試験について動画をまじえながら分かりやすくお話しされました。滞りなく総会が終了したあとは、いよいよ懇親会です（これがメインイベントかと思います）。三森一司氏（昭和49年土肥卒）の乾杯の音頭で盛大に開催されました。久々の再会に喜び合い、思い出話に盛り上がり、テーブルスピーチでお互いの近況を報告し合い、お酒のおいしい大変

活気ある懇親会となりました。私は幹事として初めて支部会に参加いたしましたが、こうして支部の活動に触れ、秋田出身でなくとも、また同じ学科出身ではなくとも、思い出話を通じていろいろな諸先輩方や後輩方と繋がれる同窓会の意義を改めて感じました。

最後に、秋田支部総会の開催にあたりましてご尽力頂きました松本支部長をはじめ支部事務局の皆様、特に開催準備や当日の進行で中心的にご尽力頂きました村上　章氏（昭和56年生化卒）に心より感謝申し上げます。

（文責：濱田　茂樹）

弘前大学農学部・農学生命科学部同窓会　秋田支部総会

# 農業土木分野卒業生による中部地区４県合同同窓会について

去る平成27年11月14日、静岡県松崎町において農業土木コース中部４県合同同窓会を開催しました。弘前大学における農業土木関係の学科は農業工学科、農業システム工学科、地域環境科学科、地域環境工学科と時代に即して名称が変更されてきたようですが、それらの学科で農業土木を学んだ卒業生が、昭和55年度以降、中部地方の各県の農業土木職員として採用され、現在、静岡、愛知、岐阜、長野県で26名の職員が農業農村整備事業や農業土木技術を生かした他の行政分野で活躍しています。静岡県では弘前大学卒業の農業土木職員13名が「津軽屋林檎店」との名称でＯＢ会を組織し、愛知県では６名が「弘桜会」を組織しています。

静岡県と愛知県では水資源の利用や農業用水事業を協調して進めていることなどが縁となって、平成19年に静岡県浜松市で両県合同の同窓会を開催したのを皮切りに、他県への呼び掛けを広げつつ、同じ津軽で農業土木を学び県行政に携わる者として懇親の輪を広げています。

平成19年９月
　静岡県浜松市　舘山寺温泉　静岡県・愛知県合同
平成20年９月
　愛知県海部郡蟹江町　　尾張温泉
平成21年８月
　青森県弘前市　鍛冶町及び篠邉名誉教授宅　長野県加わる
平成22年10月
　長野県諏訪市　上諏訪温泉　岐阜県加わる
平成26年11月
　岐阜県揖斐郡揖斐川町　谷汲温泉

平成27年11月

静岡県賀茂郡松崎町　松崎温泉

また、この会は弘前大学農業土木コースの生みの親であり平成６年に退官された篠邉三郎名誉教授（旧農業工学科）が愛知県愛西市にお住いのことから、先生を核にした集まり、先生の多方面に渡るありがたいお話を拝聴する会ともなっています。

各回とも１泊２日、温泉宿宿泊を基本として、宿泊地近隣での事業視察をセットした内容で進めており、かつて農業水利学教室で行われていた「篠邉ゼミ」と通じるところがあるかもしれません。今回は、篠邉先生、静岡県「津軽屋林檎店」より９名、愛知県「弘桜会」より５名、総勢15名の参加で開催されました。

11月14日（土）

ＪＲ静岡駅集合→静岡市清水区の現場視察（全面魚道型頭首工→傾斜地ミカン園の区画整理→区画整理法面を活用した太陽光発電施設）→駿河湾フェリー→松崎町（全国棚田百選の棚田）→松崎温泉松崎荘（懇親会）

11月15日（日）

→松崎町（なまこ壁の街並み散策）→石部の棚田（静岡県棚田10選）→土肥（恋人岬）→戸田（篠邉先生若き日の想い出の地）→沼津市（新鮮な「あじ丼」で昼食）→ＪＲ三島駅で解散

他の支部のように、学部共通の同窓会とは組織や活動形態が異なりますが、母校のある津軽から遠く離れた地において、卒業生が集い懇親を深めている活動があることをご紹介させていただきました。

（昭和55年３月農業工学科
造構・施設学教室卒業　木下雅公）

## 訃報

嵯　峨　紘　一　元教授（蔬菜・花弁園芸学）　平成28年２月５日御逝去（享年75歳）

福　井　　正　様（植病、昭30年卒）
秋　田　　淳　様（畜産、昭36年卒）
若　松　孝　充　様（作物、昭50年卒）

上記会員が逝去なさいました。謹んでご冥福をお祈り致します。

**最新の情報は同窓会ホームページでご覧下さい**（http://nature. cc. hirosaki-u. ac. jp/dosokai/）